

道東地域より新年ご挨拶

北海道統括支店 道東支店長 高橋 厚三

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は、格別なるご高配とご愛顧を賜りまして心より厚くお礼申し上げます。

また、今年も引き続き変わらぬお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

酪農、畜産情勢は豪州とのEPAの合意、TPPの交渉参加による先行きの不安、気象等の自然災害による被害、生産資材高の継続化など、引き続き課題が多い1年となりました。

そして何と言っても大きな特徴は北海道においても生乳生産量が前年割れをしている状況が長期間続きました。(10月まで)酪農基盤強化への取り組み、スケールメリットへの疑問、穀物依存に対する弊害など、近年よく利用されてきた手法に対し、課題が強く叫ばれた年でもありました。

その中で、自給飼料への期待は更に強まり、別海町での「草地植生改善フェスティバル」、釧路での「グッドグラス946」、とちぎでの「飼料アップとちぎ」、オホーツクでの「植生改善事業」等、各地で植生改善への取り組みが活発に行われてきております。

また、昨年は全国規模の酪農家さんの組織である日本酪農青年研究連盟(酪青研)の第66回日本酪農研究会が開催され、最優秀には広尾町の加藤さん(黒澤賞)、優秀賞には興部町の岩田さんが選ばれ、どちらも植生改善等の自給飼料の増産を取り入れた経営改善が高く評価されており、古くからの技術ではありますが、やはり頼りになる技術である事がまた実感できました。

◎穀物相場

海外でのとうもろこしの状況は米国で生育に適した天候が続き単収が上昇し、旧ソ連諸国も豊作、世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫は上昇致しました。(期末在庫率19.7%前年差1.6ポイント増⇒米農務省11月発表より)それにより、穀物相場は軟調に推移致しましたが、後半には投機筋の穀物市場への流入、米国北部の寒波によりやや上昇となり、更には為替の円安が促進され、海外の作況が国内飼料価格になかなか反映されにくい状況が続いております。(配合飼料価格は第1四半期上昇、第2四半期上昇、第3四半期下

降1月⇒10月価格差畜種平均-550円/t)

◎TACSしべちゃ

酪農経営基盤強化への取り組みについて対策が求められる中、すでに各紙で紹介されておりますが、JAしべちゃさん、標茶町さんと共同で酪農の生産牧場を立ち上げました。現在搾乳牛舎を建設中ですが、生乳生産は本年の4月からの開始予定であります。

自給飼料を存分に活用し、今後の酪農経営への情報発信基地として皆様のお役にたてるよう、まずはしっかりと生産活動に取り組みます。

<所在地 標茶町 搾乳牛頭数300 生乳生産2,400t /年目標>

◎飼料作物本格販売品種紹介

・ニューデント85日<ビビアン>本格販売

平成26年度から本格販売となり、比較的冷涼な道東地区地域では大人気となりました。耐倒伏性、すす紋病抵抗性及び根腐病抵抗性に優れ、更に多収品種です。

・チモシー中生の早 アルテミス (SBT0308) 北海道優良品種 本格販売

出穂始の日安(全道平均)6月19日(キリタツプより6~7日早い中生の早)

収量性が優れ、特に2番草が多収で、斑点病の抵抗性に優れます。また2番草の収量性に優れる為、夏季の生育旺盛なアルファルファ<ケレス>など、マメ科牧草との混播に適します。

・チモシー中生 ヘリオス (SBT0310) 北海道優良品種 草地事業限定販売

出穂始の日安(全道平均)6月22日(キリタツプより3日早い中生)

放牧適正、耐倒伏性、斑点病抵抗性に優れます。**各特性がランクアップされたホクエイの後継品種**です。

上記3品種はすでに本格販売されておりますが、今が旬ですので是非ご利用、ご活用を頂きたいと思っております。

本年も、酪農、畜産、農業の現場において弊社の企業理念である健土健民を基本に、良い商品と情報をお届けする事で、少しでもお役に立てるよう活動してまいりますので、皆様からのお問い合わせをお待ちしております。